

新火葬場建設検討委員会

新火葬場建設に関する 基本構想 市長へ答申書を提出



高山市新火葬場建設検討委員会（片山幸士委員長）は3月24日、國島市長に対して、高山市新火葬場建設に関する基本構想についての答申書を提出しました。今後、市では新火葬場建設に関する基本構想について議会と協議するとともに、市民の皆さまのご意見をお聴きしながら基本構想として決定する予定です。

市では、昨年8月、有識者委員5人、各種団体の代表34人、公募委員3人の計42人で構成する高山市新火葬場建設検討委員会を設置し、これまでに7回にわたる会議や、他市火葬場施設の視察などを行って検討を進めてきました。

検討委員会では、過去の新火葬場計画について市からの説明を受け、市が作成していた基本方針を検証し、それらを考慮しながら施設整備の基本方針と施設の整備内容について論議してきました。

答申では基本コンセプトを「ふるさと高山の自然と風土に抱かれた巖かで温もりのある旅立ちの空間」と定め、施設の概要として、火葬部門、待合部門、多目的部門および駐車場などの外構部門を想定し、必要敷地面積を11,800㎡程度と考えるとしています。なお、多目的部門については、候補地の状況や予算等を勘案し、必要に応じて設ける部門としています。

これまでの会議の議事録や答申書については、市ホームページに掲載されていますので、ご参照ください。

問合せ先 市民課 ☎35-3495
広報ID 1007613

新教育長に 中野谷 康司さんを任命

3月に行われた市議会定例会において、中村健史 前教育長の辞職に伴い、中野谷 康司さんが市議会の同意を得て、新教育長に任命されました。



教育長
なかのたに やすし
中野谷 康司さん

「志とあたたかい心」

私が大切にしている言葉は、高山市教育振興基本計画にある「志とあたたかい心」です。この言葉が「活力とやさしさのある飛騨高山」に繋がります。

1878（明治11）年 明治維新で大活躍した英国人外交官アーネスト・サトウは、高山を訪れました。このとき彼は「ぜいたくなもてなしは期待できないが、村人は礼儀正しく、旅人にくつろいでもらうよう最善の努力をしてくれる。」と山国の人情を記しています（『明治日本旅行案内』）。高山を「瀟洒な街」とも表現し、整然とした優雅な町並みを讃えました。さらに「西洋風に建てられた学校が周囲の建物と対照的」と注目しています。ここに私は、新しい時代を育もうとする人々の志を感じます。私も「志とあたたかい心」で伝統・文化を活かしながら、新しい時代の教育に挑んでいきます。よろしくお祈りします。

問合せ先 教育総務課 ☎35-3153

ご意見をお寄せください

市では、次の計画策定にあたり、市民の皆さまからの意見を募集しています。

案件名 高山市公共施設等総合管理計画（基本方針）

問合せ先 行政経営課 ☎35-3040 FAX35-3162

Mail:gyouseikeiei@city.takayama.lg.jp

意見を提出できる方 市内在住・在勤の方、市内に事務所を有する方（法人・団体を含む）

閲覧場所 市 **HP**、行政経営課（本庁4階）、市民コーナー（本庁1階）、各支所、市図書館「煥章館」、市民文化会館、ビッグアリーナ、女性青少年会館（休館日を除く各施設の開館時間内）

提出方法 所定の様式に意見をご記入のうえ、5月2日（火）までに窓口・郵送・FAX・MAIL ※様式は閲覧場所にあるほか、市 **HP** からダウンロード（広報ID 1008264）できます。

計画の概要

本計画は、人口減少や少子高齢化などをふまえ、公共施設の現状把握や持続可能な行政経営をするための量と質の見直しなど、公共施設のあり方についての検討を行い、総合的かつ計画的に公共施設を管理・運営するために策定するものです。

本計画は、市の最上位計画である「高山市第八次総合計画」や行政改革の推進と連動して、健全な行財政運営の推進を図ります。

本計画は、基本方針と実施計画にて構成し、今回は基本方針について策定します。

実施計画は、個別施設ごとの具体的な対応方針を示した『個別施設計画』として、平成31年度までに策定します。